

# 第13回 全国市議会議長会研究フォーラム

in 宇都宮 に参加して

(報告書)

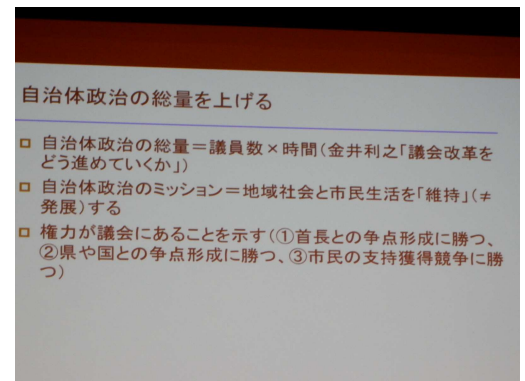
さる平成30年11月14～15日、栃木県宇都宮市で開催された標記フォーラムに参加した。「共生社会と地方自治体」をテーマとした基調講演、「議会と住民の関係について」のパネルディスカッション、翌日は同様の内容の事例報告がなされた。

## I 基調講演「共生社会と地方自治体」

中央大の宮本太郎教授が人口減少社会の中で、さまざまな仕組みが変わろうとしていることを指摘。地域福祉・社会福祉分野では「支えてあげる社会」から、「支えあう社会」に、つまり、「受け手」・「支え手」という関係は成立しなくなり、皆ができる仕事を分担しながら共生してゆくことが必要になるという。

千葉県の生活クラブや静岡県富士市で取り組まれている「ユニバーサル就労」、つまり、一人一人にできる仕事に切り分けて、その部分だけでも仕事をしてもらう、分担してもらうことが必要になり、このことによって元気人口を増やしながらかつて全員参加で地域・社会を支えあうことが不可欠となる。

福井市や広島県安芸群府中町の「シルバーママ」事業、柏市の「生きがい就労」事業、東京都の「グランドシッター」事業など、多くの地域でその取り組みが始まっている、とのことであった。



## II パネルディスカッション「議会と住民の関係について」

膨大な内容で有ったため、詳細は添付資料に譲るが、心に残った事を箇条書きする。

★ 朝日新聞社 神田誠司氏

- ・議員に必要なもの、聴く力！
- ・会津若松市では議会モニター制度を作り、100人のモニターから住民の意見を聞いている

★ 宇都宮市議会議長 小林紀夫氏

- ・二元代表制はダメ。議院内閣制を止めた途端、議会の力が無くなった。地方制度改革が必要。
- ・国のマニュアルに沿った行政計画は絵に「描いた餅」。地方自治体を縛り、独自性を損なっている。



## 「議会と住民の関係について」の事例報告

翌日の事例報告では先進議会の4人の議員が報告をした。みな大いに参考になったが、ここでは新潟市議会の伊藤健太郎議員が報告した、「主権者教育推進プロジェクト」について簡単に述べる。

議長の強力なリーダーシップの下、議員有志13名が大学教授の助言をもらいながら中学校・高校生徒たちを対象にした「模擬市議会」を実施し、合意形成のロールプレイングにより問題の解決策を決めて行く作業を実践した。平成28年度4校328人、29年度4校225人、議員延べ55名が参加した。

議会の動き、政策の決定過程を体験することにより、議会や政治に興味を持ってもらう、ひいては十分達のまちをどのようにしていけばいいのかを考えて行くきっかけ作りとなりつつある、とのことであった。



今回のフォーラムは大変楽しいことがあった。それはパネルディスカッションのパネラーで登場する熊本の本田節氏にお会いできたこと。20年くらい前から川づくりの仲間の一人として人吉で頑張っている方にお会いできたことだ。当時は人吉市の市会議員としても活躍をされて

いた方で、夜の懇親会では\*\*\*を深められた。市議の後、県議に出られたそうで、落選後も精力的にまちづくりに邁進していらっしゃる様子が頼もしかった。私も頑張らねばと心を新たにさせられました。



市民の皆様のおかげで、多くのことを学ぶ機会を得ました。皆様に感謝申し上げるとともに、学びを市政に活かすよう頑張る所存である。

平成31年1月8日  
田川市議員 植木 康太